日文研図書館蔵書紹介　2018年度

国際日本文化研究センター資料課　2020.3



“古地図と絵はがきでみる京都・岡崎”
http://id.nii.ac.jp/1368/00006974/ で各時代の岡崎の様子を紹介しています。写真は1928年、昭和天皇即位を祝して開催された京都大博覧会場の様子(現在の京都市美術館辺り)を描いた絵葉書。(6/7投稿)



送り火の夜に壬生寺で行われる中堂寺六斎念仏は、元禄頃から伝わる大衆芸能で、発祥は空也上人まで遡ると言われます。写真は2013年の演目を収録したDVD(『中堂寺六歳念仏:平成25年度壬生寺盂蘭盆精霊送り火奉納』)です。(8/2投稿)



人間の目の特性を生かすように作られたステレオスコープ。同じ写真が2枚並んだ用紙をセットして覗くと立体的に見える道具です。満州の様子が分かる写真と解説がついています。(9/13投稿)



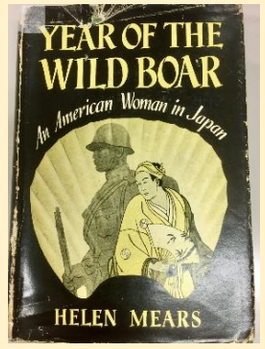
“古地図と絵はがきでみる日本の温泉”
http://id.nii.ac.jp/1368/00006997/ で3つの温泉を紹介しています。写真は1907年に発行された熱海の地図です。温泉寺や來宮神社等丁寧に書き込まれており当時の様子がよく分かります。(10/11投稿)



観光絵葉書の中から奈良の鹿を描いたものを紹介します。「森の蔭、芝生の上悠々として群れ遊び人に馴るゝ様眞に愛すべきは春日の神鹿なり」という文言が見えます。(11/8投稿)



12月と言えば第9交響曲“。約100年前第1次大戦で捕虜になったドイツ兵が鳴門市の坂東俘虜収容所で第9を演奏したのがその始まりです。日文研所蔵のデジタル・一次史料等計10点は、OPAC”板東俘虜収容所関連資料“で検索。(12/12投稿)



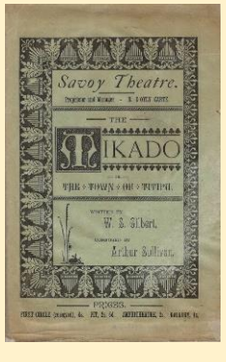
新年の干支は亥。“Year of the wild boar(イノシシ)”という題のこの本は、戦争に向かいつつあった1935年(亥年)の日本の日常や社会の様子が描かれた、アメリカ人女性記者のノンフィクションです。(1/17投稿)



京都の7月は祇園祭の季節。写真(長刀鉾)は昭和4年『The Gion Festival』、当時の都ホテルが発売した祇園祭英文ガイドの挿絵です。祭の起源、当時の様子のほか、各山・鉾の詳細を解説しています。(7/5投稿)



1938年の映画『チョコレートと兵隊』は、戦地の兵士が慰問で得たチョコレートの包み紙を製菓会社に送り、集めた包み紙でもらえる景品を日本の息子に贈るよう頼んだ、という美談がモデルになった。写真は当館所蔵の浪花節版レコード。(2/14投稿)



1885年3月14日、ロンドンのサヴォイ劇場で上演されたオペレッタ「ミカド」は、大人気作品となり、欧州各地や米国でも上演されました。日本を舞台に英国の上流階級を風刺したと言われます。写真は当時の配布物。(3/14投稿)

SNSで
紹介しました